

備前市の歴史

昭和の大合併まで



約37,000年前～18,000年前大草原であったと思われる日生沖の瀬戸内海
(出典:岡山県立記録資料館)

日本の旧石器時代にあたる約3万7千万年前から約1万8千万年前ごろは、最終氷期(約7万年前～約1万年前)にあたり、海水面は現在より100m～130m低下しており、瀬戸内海は瀬戸内盆地であり大草原であったと考えられています。(※年代については多説あります。)そして小豆島や家島、日生諸島の島々はその草原にそびえる山であったということです。(瀬戸内海の現在の平均水深は約38m) また、この頃朝鮮半島と日本列島は陸続きであったとされ、旧石器時代の人々は、今から約3万年足らず前に中国大陸やその他からやってきて、瀬戸内の草

原で動物を追って移動していたと考えられています。

この頃人々は、打製石器を使ってナウマンゾウやオオツノシカなどの大型動物や、その他の動物の群れを追って狩猟を行っており、佐山の亀井戸廃寺や鶴海坂田貝塚周辺、日生諸島などで多くの遺物等が発見されています。

約1万年前に氷河時代が終わり、瀬戸内盆地に海水が侵入して瀬戸内海ができ、日本は大陸とも離れて弧状の列島になったということです。

大陸との往来ができなくなった大型動物の乱獲による絶滅の代わりに、海水の侵入により貝、魚の種類と量が増え、イノシシ、シカなどの動物が増えていきました。

このため、狩猟の方法を変える必要があり、工夫をしていろいろな道具を作りました。弓矢・土器・磨製石器がこれです。

これが縄文時代の始まりで、1万年くらい前から2300年くらい前まで、約8000年間続いたそうです。食糧確保のため、狩猟や木の実の採取から次第に作物採取へと転換が始まり、集落の形成が進んでいきます。この時代の遺跡に、西片上の長縄手遺跡(4000年前、縄文時代中期末)の集落跡や新庄西畑田遺跡(縄文時代後期前半)があります。

そして水稲栽培が始まり、弥生時代(BC3世紀～AD3世紀の約600年間)へと移っていきます。畠田の船山遺跡は、弥生時代前期後半から中期中頃までの遺跡とされています。

続く古墳時代(AD3世紀中頃～7世紀前半の約350年間)には、長尾山古墳、新庄天神山古墳、鶴山丸山古墳、小丸山古墳が造営され、後期にも船山古墳(坂根)、池灘古墳、大滝道古墳群(十数基…大内)、奥谷古墳群(香登本)、惣田奥古墳群(佐山)

などが造営されています。

5世紀後半、大きな内乱が吉備政権と、ヤマト王権との間で勃発したと『日本書紀』に伝えられています。これが、いわゆる「吉備の反乱」伝承です。この伝承によれば、吉備氏は雄略天皇とその一族に対して3回にわたる不敬、謀反を企てたといいますが、これらの企てはすべて失敗に終わり、吉備氏は勢力を失ったと伝えられています。

飛鳥時代(593年～710年)にはヤマト王権の拡大により中央集権が進んでいきます。このようなかで、西暦672年の壬申の乱直後に吉備地域の分割が行われ、備前の国という呼称が使われた可能性が高いとされています。

また、正式には689年(持統天皇3年)の飛鳥浄御原令の発布をもって「備前国」「備中国」「備後国」に分割されたということです。さらに713年には備前国から美作国を分立しました。こうした分国によって、吉備をさらに弱体化させ、ヤマト王権の支配を安定させる狙いがあったものと思われます。奈良時代(710年～794年)、備前地域は、当初邑久郡香登郷、方上郷等に属していました。その後766年に、藤野郡(のちの和気郡)に編入されました。

平安時代(794年～1185年)には、現在の備前地域は「倭名類聚抄」では和気郡坂長郷、香止郷ですが、記載のない方上郷は「延喜式」では美作の片上津となっています。香止郷は伊部を含む香登の平野部と想定されています。

平安時代から鎌倉時代には荘園が数多く設けられ、備前市もいくつかの荘園と国衙領となっていました。広大な荘園であった新田荘は、現在の備前市では、東片上・西片上・吉永町笹目のほか、新田新荘

と呼ばれていた伊里中・木谷・閑谷・八木山・蕃山・麻宇那・友延・穂浪及び日生町全域を含むものであったようです。香登荘は、香登本・香登西・大内・新庄・畠田・坂根・福田・伊部にあたる地域だったようです。国衙領では、吉永保は、吉永中・福満・南方・三股・岩崎の地域であり、神根保は不確かですが、神根本・高田・今崎・都留岐・和意谷であり、三石保は三石・野谷であったようです。また、鶴海・佐山はこれも不確かですが、佐山保であったとされています。

鎌倉時代（1185年～1333年）には、土肥氏、佐々木（加地）氏、長井氏ら閑東武士が守護地頭職となり、建武の新政（1333年～1336年）では細川氏、松田氏が治めています。

この頃、都と筑紫を結ぶ山陽道は、三石から吉永、和氣を通って岡山方面へ抜けていたのが、方上津（片上）、備前焼の産地である伊部を通って、福岡の市が発展した八日市付近で吉井川を渡り、岡山方面へ向かう経路に変わっています。

室町時代（1336年～1573年）には、赤松氏（守護）、山名氏（守護）、浦上氏（播磨の豪族、赤松氏の守護代）等が治めますが、宇喜多氏（備前の豪族、浦上の重臣）の台頭により備前の国は宇喜多氏の領地となりました。

宇喜多氏は57万4千石という大大名として豊臣政権の五大老となりますが、関が原の戦いで西軍についた宇喜多秀家は領地没収で八丈島へ遠島となり、領主は小早川氏、そして池田氏へと移ります。

江戸時代の備前は、池田家岡山藩の治世であり、京・大阪と九州を結ぶ主要街道である西国街道が通り、三石・片上に本陣、脇本陣がある宿駅が置かれていました。香登にも間の宿が置かれ、運送業や醸造業で栄え、香登産のお歯黒の粉は高級品として全

国的に知られていました。

また西片上村は瀬戸内航路の湊であり、岡山藩の「御米蔵」が置かれ、備前焼をはじめとする岡山藩の物資の積出港としても繁栄しました。

大多府は天然の良港であり、元禄11（1698）年岡山藩によって開かれ、在番所・御用家・加子番所などが置かれ、潮待ち、風待ちの港として参勤交代の御座船や大型廻船が寄港し、その中には北前船も含まれていたと推定されています。（北前船49から）

寛文10（1670）年池田光政公の命により創建された閑谷学校は、庶民のための学校として盛衰を繰り返しながら、多くの有能な人物を輩出してきました。

また、建設にあたった津田永忠は、岡山藩の多くの土木事業を行い、備前市ではほかに閑谷学校の学校田である井田や、和意谷池田家墓所、大多府漁港の元禄防波堤などの建設に携わっています。

明治元（1868）年時点で、現在の備前市の区域には和氣郡53村、邑久郡2村があり、明治22（1889）年には合併により和氣郡12村、邑久郡1村となり、町制施行に移りながら、昭和26（1951）年に片上町と伊部町が合併して備前町に、昭和29（1954）年に吉永町と神根村、三国村が合併して吉永町に、昭和30（1955）年に備前町と香登町、伊里町、和氣郡鶴山村と邑久郡鶴山村が合併して備前町に、日生町と福河村が合併して日生町になりました。

【参考文献】

「古代吉備をさぐる平原から海へ―瀬戸内海の形成」

岡山県ホームページ

（岡山県古代吉備文化財センター）

「和氣郡史」和氣郡史刊行会

年月日	変遷	邑久郡	和気郡																		
1868(M1)時点	和気郡 53 村 邑久郡 2 村	鶴海村 佐山村	伊部村 浦伊部村 久々井村	西片上村 東片上村	香登西村 香登本村 大内村	蕃山村 麻宇那村 木谷村 閑谷新田村 難田村 井田村 木生村 伊里中村 友延村	新庄村 畠田村 福田村 坂根村	三石村 八木山村 野谷村	日生村 大多府村	寒河村 福浦村 福浦新田	田倉村 倉吉村 金谷村 南方村 吉永中村 三股村 北方村 葛籠村	神根本村 小坂屋村 山津田村 門出村 南谷村 脇谷村 櫻村 和意谷新田村	八塔寺村 下畑村 滝谷村 東畑村 大藤村 大股村 飯掛村 牛中村								
1875(M8)	一部統合	鶴海村 佐山村	伊部村 浦伊部村 久々井村	西片上村 東片上村	香登西村 香登本村 大内村	蕃山村 麻宇那村 木谷村 閑谷新田村 穂浪村 伊里中村 友延村	新庄村 畠田村 福田村 坂根村	三石村 八木山村 野谷村	日生村 大多府	寒河村 福浦村	福満村 金谷村 南方村 吉永中村 三股村 岩崎村	神根本村 今崎村 高田村 和意谷村	加賀美村 多麻村 都留岐村 笹目村								
1889(M22).6.1	市町村制施行	鶴山村	伊部村	片上村 片上町	香登村	伊里村	鶴山村	三石村	日生村	福河村	英保村	神根村	三国村								
1901(M34).2.6	町制施行										三石町			日生町							
1906(M39).3.28	町制施行																				
1912(M45).4.1	町制施行																				
1927(S2).10.1	町制施行		伊部町					香登町													
1948(S23).10.20	町制施行																				
1948(S23).11.1	改称		備前町			伊里町				英保町											
1951(S26).4.1	合併									吉永町											
1951(S26).11.3	町制施行																				
1954(S29).3.1	合併																				
1955(S30).3.31	合併	備前町							日生町												
1971(S46).4.1	合併	備前市																			
2005(H17).3.22	合併	備前市																			